



青砥藤網摸稜案卷之二

東都

曲亭馬琴編述

縣井の中

金刺圖書が女児十六夜ハ云号の妻縣井司三郎を侍と既小
 旬日おぼふづも。絶て青耗は。その夜は腰えたる。女の指打ハ
 毎夜又度のあるてある。衡門のほくらに立在て。彼ハやま
 と等閑なる。辰物とれども。さる不生憎は。其さうけや。おぼ
 及ぶる夜金刺が第宅より。百歩をうり。東の坊。一目の
 あつ。主人が名を。子母家利九郎と。呼まて。所帯を。さ
 ある。この夜さ。亥中の比。及と。おぼ。た。頭小門を。敲
 たる。約印の法師。う。は。こ。を。名。を。さ。る。ひ。の。有。成。後。の。り。の。あ。り。

東都夜集卷之二

青砥藤

根

新宿中之野



天

下



松



抄録巻二

且く密詰るるも一皮身の長高紙が今一個の罎へやと足
 踏く。箱の上へ内りと登りて煙土の破風門より裏へ潜び入ると
 おや。行脚の僧のこゝろをたはなす。這奴等ハ平く盗賊
 ろらん。内なる人と叫び覚るや。とちよ一個の賊ハる外
 あり。慙は声を立て。こゝろは居る紙あはさる。支地は教さるし。
 よや。とてあやふ信を尽とも命を損しとゆるせん。の
 のぬあはちとあはじとあひひつ。のや身を屈めく青もせせ。
 只彼ホがさるや。阿容ととる程。内は竊入する大倭子。
 衣やらん。袴やらん。一紙あはせると。廊上よりおろし。せうぶ外面
 立在する盗賊。こゝろを受とる。脊負。同件の大倭子の身を
 ちよ。内りと飛下。此彼覚るとちよ笑て。又何のやん私語。

物を登。肩より西のくさき去り。彼大倭子の東の巷を
 脱去ぬ。法師のこゝろをまじりて嘆息。いやくの積る。茶門
 虎と防げ。後門は狼と進むといふ。この家の族。勅よ。こと
 疑て。拒て宿。許さ。却。却。盗賊の入る紙去る。あま
 や。あま。とて。彼賊ハるや。逃去する。今更は。の
 昔と死の。いよ。口は。疑。あま。とて。い
 解んとするとも。澄。あま。とて。い
 よ。臥。更。禍。野。の。か。ま。と。再。三。念
 入。驟。雨。と。降。と。死。と。忙。慌。つ。路。を。送
 送。入。と。野。中。の。敗。井。は。踏。く。け。愕。然

どしと墮るるか人の汲ぶる敗井るまは落葉の込も塵は或は埋
て底少の水も多かるる幸かして恙なきといふもその深きと
る月一まよあまうぬまは便の断る釣籠み等しく人のちり
備さむば弥勒の世まで生じえ来その知往還の便路も
あとの誰々とまゑ死なむと雨の降やうやく降らむ秋の夜
るればいと長くてやうやあなるやうな志はく声をありきて鎮
敷ひを求むまごも井の月とらさるる力の絶て一人もあらずけり
案下某生再説金刺が庭門あり弱竹の例の如く人定めて後
衝門の裏にまゐりて司三郎と侍るま秋も名残の比るま夜の
深き随いと寒くて冬よりも塔うら天の忽れは結陰又忽れは月
出て星の比るま今やや青も志の移るる人あまぬま

月とともあま彼君の毎夜もみそぐだのゆて胸くくぞ坐める
男のころは喩ふる天はま定められた夜うねとひとりごらう樹の下
る月清しくと立在るまま使る身は恋るま来ぬ人をあ
あ秋も深あま今へとてあひま内へ入らんとさるおらう外面
人あつて志のびやうあまるとまとまとまとまとまとまとま
うら澄ぐまも嬉しむといふまもあまも外面あまも
足を翹て潜びま門下身を倚くま弱竹の遠く懸井の
ゆいあませうの夜まおとせまのまもまもまもまもまもまも
やとら門扇を開たうとまもまもまもまもまもまもまもまも
大倭子氷の如き刃を引捲て衝と内へ入るまはけま弱竹吐差と
さうだて賊あり賊ありと叫ぶ知と二声とまもまもまもまもまも



地蔵の手本

同三郎をせしめ
弱竹を死せ

とて

ふうあげて弱竹が腕をぶちやうとんと破やぶれふせが仰うやうさま外うへまきり
 かくて盗賊の血刀をう攪かきまぜて甲夜かやは弱竹が出いたり。縁えん頼たのの戸かど後のちより
 障子しょうじよりうら灯とうの光ひかりと葉はみりて十六夜いざよひが便室へんしつより入り夜類よるい調度
 るんどもふあくる物を悉ことごとくう攪かきまぜひり。強つよささる気色けしきも多おほく。舊ふるの
 度門どかどより脱去だつそりり。あつるふ十六夜いざよひの今宵このよも司三郎しざうとすりりるふ
 小夜こや深ふかくすべいのも満みちをさむ。いりみくとさひりり。方あた折をり忽たちに弱竹じやくちくが
 驚おどありと叫こゑをききて吐はきく臥房ふしどを生うるふ。膚かわの粟あはのいろ。さき、舞
 麻あしなて齒はの根ねあつて。りその盗賊ぬすびとのこへ中なまぬらへとあへり。さき
 くて。つが室むろみから途ちよ惑まどひ。夜具よぐ祇ぎを引ひ被かけて屏風びやうぶの記しを
 たり。あつれどの盗賊ぬすびとの物ものを取とらんとさへあつる流石たしなよ逃にはるの
 かつけしむ。四隅しごちうでんえんの由ゆ索さくさど。只ただ臂うでちりるる物ものをのこす。

攫ひて。いらたを脱去りし。十六夜かや。くつは。つと。く。く。
 頼人。と。呼ぶ。不。二。親。の。さ。ら。し。奴。婢。亦。中。子。お。く。紙。燭。く。
 走り。ま。つ。その。い。ひ。火。燭。の。光。景。を。見。て。大。き。く。驚。か。る。母。盜。賊。の。
 そ。と。ふ。縁。を。居。る。と。り。中。と。主。由。家。隷。由。浴。室。廁。の。戸。を。開。け。
 入。る。ら。あ。が。て。庭。へ。ま。り。出。て。る。母。隈。中。の。獵。り。と。む。ふ。衝。門。を。
 半。開。き。て。あ。り。さ。ま。い。ば。こ。そ。ま。り。く。け。ま。さ。く。門。を。閉。て。逃。ま。る。
 と。い。れ。ま。つ。ら。圖。書。を。み。づ。り。ら。先。を。ま。さ。さ。そ。門。の。石。を。あ。い。め。た。て。
 見。ま。へ。あ。る。隙。す。弱。井。の。隅。より。乳。の。下。ま。で。破。裂。ま。鮮。血。不。
 塗。ま。て。倒。ま。て。あ。り。主。後。を。見。ぬ。と。且。驚。か。れ。且。呆。ま。の。舞。臺。の。
 踏。ま。を。ま。つ。と。そ。か。中。に。老。僕。繁。市。の。女。児。の。死。骸。を。抱。き。
 起。し。て。声。を。限。ら。ず。呼。び。泣。き。ま。さ。し。も。既。に。梓。断。ま。ま。ば。華。陀。あ。り。と。も。

救。へ。づ。も。あ。ら。ざ。り。牙。の。い。と。い。ま。う。冷。く。繁。市。の。う。啞。咽。つ。り。て。
 流。く。涙。雨。の。ど。く。ぬ。り。ぞ。か。ま。る。禍。の。神。の。祟。の。恨。く。空。く。死。
 骸。を。揺。動。す。よ。弱。井。汝。の。十。三。の。年。の。母。を。喪。ひ。世。に。さ。る。械。乃。
 ち。の。ち。移。が。親。子。の。縁。共。當。家。は。仕。て。十。六。年。の。け。い。あ。ら。ま。あ。り。ら。
 今。茲。に。廿。八。の。日。に。身。の。暇。を。と。ま。し。て。然。る。べ。き。人。の。妻。と。く。初。孫。の。
 顔。を。見。む。や。と。さ。ひ。お。と。さ。ひ。さ。や。盜。賊。の。子。お。か。り。と。あ。る。今。を。
 隕。さん。と。い。ふ。や。仇。人。の。名。を。ま。つ。と。ま。さ。し。も。木。を。伐。り。草。を。芟。拂。ひ。て。も。
 怨。を。報。ひ。て。む。こ。そ。ま。い。形。る。や。恨。く。や。と。か。ら。ぬ。と。ぬ。く。く。ま。り。く。も。
 老。の。く。り。と。果。し。ら。く。天。は。叫。び。地。は。叫。び。人。も。羞。む。泣。ま。せ。り。か。く。と。
 あ。る。べ。き。よ。あ。ら。移。が。あ。る。圖。書。へ。繁。市。を。吐。り。激。し。ま。づ。弱。井。が。亡。
 骸。を。母。屋。へ。昇。入。ま。さ。せ。る。と。ま。さ。し。も。十。六。夜。の。い。と。く。弱。井。が。横。死。を。

ありまをいば友ふこそ夜出てかへる御陰せ。とどろかまは悼く。
 只潜然と立ち泣けり。當下金刺の女見は對ひて盜賊が為体と
 推しつゝ向鞠るふ。十六夜のいそぎのよとまどろき。御小弱牛が
 賊ありと叫びつゝ遠く起出付まじも流石は物のおそくして
 屏風の背に隠れり。密と窺てきたる行は闇をかりの刃の光の
 是くと因こたはまが。そが袷衣を引被せてふこびりよくゆらん。と
 羊の齡まじりなくや。まの白くし軟皂より軟一切総たまじと
 のび又いつりと啖て肩紙鞆め。まろりと死の弱牛の何の為は
 小夜深て漫は庭へ出するぞ。同は十六夜のいそぎの刃の白く
 生かかて改紙低て殺せむ。さて喪するりのを檢見るま多くは
 十六夜が潮なみそ白浪りて送るりの。象牙琥珀みそ送るめ。

件くるり。さうとる程は天の明よけまは。ちが弱牛が亡骸を香た院へ
 送るて葬らじ。かくて金刺の竊は繁市を呼びていふや。け友の
 厄難不慮不起アとて。缺副もある女見を殺せ。汝が哀傷ぢひ
 ぢまば。いそぎも又了髪より。后使する女の子るれば悼くぢま所
 あり。まろりとて死するめの死いふせん。今のみ彼盜賊を搦索で
 仇と報の外の外あぶらぐ。つらつらと尋思する小件の賊は別人
 る。は曇小鳥羽より消去する。絲井司三郎る。はあつたるれば
 這奴いそぐ凋落て。身のおれ所あるまふ。秘をかりや。まろりと
 来しまじも。いそぎも又あふ。あまは寄つけむ。さあはよふりて。いそ
 不良の糸紙獲して。つが宿所へ竊入る。程は弱牛は怪めらま
 矢疑ふこまは。砍殺して脱去するふ疑ひは。とまろりと。はて鐘扱を

うが。そのものごとく疑念を散し。價を定めて買とりぬ。あつらふふ。
 立地は財主はあつて。こまに賣され。幸後すつ。よ便宜。功然
 のまて進まふ。波引く。あつて。信ぶら。相譚。警市
 笑て。ちん。原。女見の仇人。司三郎。極。笑ひ。我の
 奴。或。飲。飛。胸。推。さらぬ。笑ひ。我の
 撥て。野四郎。付ひつ。ま。事。越。主人。圖書。小
 ち。圖書。あ。大。飲。こ。推。量。小
 一。盗。探。お。高麗物。高。買。を。び
 入。又。面。向。鞠。と。衝。と。ま。端。近。出。ほ。ど。い。
 繁。市。へ。還。く。野四郎。と。玄。図。は。誘。引。つ。當。下。圖書。へ。よ。野
 四郎。が。め。て。あ。ま。井。指。環。を。り。は。て。う。か。打。く。一。あ。を。

えて。その。本。屋。の。同。よ。野。又。認。と。た。め。の。如。圖書。を。
 汝。の。人。う。法。券。と。取。と。や。と。同。の。ま。安。を。窺。し。けれ。
 人。品。骨。相。い。年。う。ぐ。ん。え。て。い。ハ。券。書。を。や。り。め。ど。の。い。せ。め
 の。と。圖書。へ。圓。る。眼。を。睨。り。汝。甚。胡。乱。る。り。ま。と。や。の
 友。の。子。女。見。の。所。を。る。る。前。夜。盗。賊。は。奪。ひ。去。ら。れ。後
 あ。ま。て。こ。ま。に。買。ふ。と。も。券。書。の。け。ま。支。黨。の。疑。ひ。を。り。し
 と。た。が。て。けん。こ。ま。に。れ。ら。の。越。と。謙。愈。之。訴。人。不。道。奴。を。逃。し。て。ぬ。
 と。い。れ。ま。け。ば。野。四郎。の。忽。地。は。顔。を。土。の。如。く。り。り。て。更。は。面。實。を
 解。ら。ぬ。と。直。と。呆。て。居。り。け。か。て。金。刺。圖書。の。遠。く。奥。へ
 ぐ。り。て。妻。の。鞆。を。盗。賊。と。索。る。る。や。を。後。ま。し。俄。頃。不。夜。盜。賊。を
 察。して。謙。愈。之。赴。き。こ。ま。と。訴。人。と。ま。る。預。又。鞆。の。思。慮。ある。老。女。を。れ。ば

出て侍役川の市より一由り後ふ。忽ち捕手の兵士五六人。前後
 左右を推取巻矢庭。不司三郎を縛り。鎌倉と投てまきけり。
 正は是鶴の燕雀を纏ふ異なり。秘が司三郎の一言半句の同義
 なる。云々。犯せるるに牙あり。今更何の友あり。斯
 まで辛めめあめらん。吾侪の羞へ数ある。今更何の友あり。を
 難とぞ。母口とびえりし。けり。難うのまよわたり。湯茶を
 進とぞ。とぞ。胸の塞りて。後へ背へ又向ひ。親と
 公の傳の索と思愛の絆。おる。孽ハ。只是天のものとぞ。み
 びして。あつ。ふ。び。も。せ。鎌倉の文注所へ。ま。り。一。ん。
 捕手の兵士等。不司三郎を坪の内へ引居。延尉藤綱のゆ。と
 待て。浩知。金澤の商賈。いと疲勞。ま。る。法師の。年紀

三十をくり。あ。び。縛て。新陣。小。ま。り。つ。こ。ま。る。中。延尉乃
 出。を。結。り。不。且。て。青砥。藤綱。文注。所。出。り。當。下。捕。手。乃
 兵士。近。く。と。み。て。伊勢。の。旅。客。縣。井。司。三。郎。を。搦。縛。て。来。る。る。
 よ。紙。吹。え。あ。げ。れ。ど。次。は。金。澤。の。商。賈。お。そ。る。く。小。藤。と。と。め。
 金澤。祇。名。寺。の。門。外。に。典。物。店。利。九。郎。小。治。と。ま。る。り。ゆ。め。れ
 夜。更。闖。て。こ。の。法師。頻。に。某。が。門。と。敲。き。て。宿。を。投。ゆ。ひ。一。か。小。夜
 深。く。道。内。へ。入。り。ま。る。こ。が。家。旅。店。小。ゆ。り。秘。止。宿。の。る。か。あ。ひ
 ゆ。ら。と。推。辞。ゆ。ひ。一。か。ま。る。る。今。宵。の。この。筈。下。小。藤。と。と。め。
 ひ。ら。と。と。ら。て。その。後。の。夜。あ。け。て。ん。ま。る。こ。の。法師。ゆ。ら。の
 程。あ。る。潜。び。入。り。けん。物。夥。盗。去。て。その。往。方。を。ま。る。と。此。番。役。首
 と。穿。鑿。し。ゆ。破。風。門。乃。尾。を。踏。破。り。ま。る。あ。り。又。車。の。下。は。細。伏

笠あり。こまよよりく。その夜の盗賊の門を敲て宿を投る。法師
 あり。又破風より潜び入り。さう又まゝ。かゝり。か
 まのびく。その往方を索め。如ふ。天の網よかけられて。遠く。近も
 まり。船を。づつ。三四町ある。ある。佃井の底に墮る。流石。深
 け。船も出ど。第三日のけ。お至り。彼井の中より索獲す。
 乃。こまと。新。事。文書。具あり。と。述べ。藤。網。は。て
 ろ。ち。点。改。ま。げ。録。井。を。近。く。引。居。せ。せ。と。三。郎。は。又。魚。太。郎。の
 年。来。孫。金。之。交。加。る。高。賈。る。と。い。つ。も。さ。く。その。人。と。り。と。い
 伸。く。笑。つ。ま。ろ。ろ。お。汝。の。産。業。を。承。由。願。む。漫。は。あ。や。と。難。敵。て
 亡。又。の。な。と。り。金。刺。圖。書。が。宿。所。へ。潜。び。入。り。て。賊。と。り。の。と。り。と。い
 下。女。弱。竹。を。強。て。女。姦。せ。ん。と。く。却。こ。ま。と。斬。害。と。これ。何。ホ。の。悪。事。ぞ。や。

且。今。金。澤。の。高。賈。利。九。郎。が。捕。獲。て。新。と。こ。の。賊。傳。も。同。夜。の
 る。あ。く。時。刻。由。又。符。合。せ。り。お。り。よ。の。紙。傍。へ。汝。が。支。黨。を。お。れ
 ぐ。ま。奸。を。と。り。賊。と。り。く。人。と。ま。い。れ。ま。と。や。お。り。人。暗。ま。お。れ
 神。明。こ。ま。賊。堅。ま。ぬ。お。れ。お。れ。王道。と。ま。い。れ。正。と。その。夜。も。汝。金。刺。が
 宿。所。へ。盗。入。る。竿。と。指。環。を。さ。る。船。物。と。地。口。郎。不。售。と。り。し。
 彼。高。賈。團。書。と。共。に。新。と。り。登。跡。既。お。分。明。る。も。さ。陳。と。り。お
 由。あり。と。い。ひ。懲。ら。ま。て。司。三。郎。額。を。著。こ。お。り。ひ。ら。ら。ぬ。誣。言。と
 せ。ん。て。こ。ま。ゆ。某。七。某。お。れ。父。を。喪。ひ。母。の。孝。ふ。ま。り。と。り。人。と。り。れ
 ども。産。業。既。滅。却。し。て。親。の。活。業。承。嗣。お。り。ま。り。高。賈。ま。い。れ
 ども。父。も。文。学。の。才。化。し。超。て。ゆ。べ。某。又。幼。稚。う。り。昔。学。ま。り。ゆ。い。し
 ま。れ。ども。田。舎。ま。い。り。て。ん。遺。跡。ん。う。と。も。さ。る。家。の。い。ま。ま。い。り。

廊へ潜び入り。又金刺が婢女弱牛を殺せし。欽真の生家あり。
 あり。本貫は何國のものぞ。とて告げ。責問へ。
 法師へ騒ぎ。糸をもち。某へ原筑前天童寺の住持。
 岡浮院の和化。景空と唱。力のふゆ。既又辞別。
 御。衣糧。不。蠟。不。漫。悪。を。獲。り。て。い。ぬ。夜。金。沢。
 高賈の土庫。潜び入り。予。金刺と。ん。が。宿所。入。て。物。影。
 盗。ま。り。脱。ま。さ。ん。と。ま。る。と。た。よ。一。個。の。女。の。子。は。追。ま。り。て。己。こ。
 ぬ。と。矢。意。よ。これ。を。教。害。し。是。不。信。と。逃。失。ん。と。ま。る。行。は。悞。て。
 井。は。滾。落。た。ま。あ。る。と。二。月。よ。乃。び。と。か。捕。ま。り。て。ゆ。い。ど。も。た。の。
 仕。使。を。絶。て。終。つ。と。某。既。は。天。罰。の。脱。ま。か。た。と。な。め。て。
 学。び。ま。ら。罪。の。大。る。ぬ。ま。ま。ら。つ。ら。と。の。仕。使。を。と。り。ま。い。と。

窶。け。は。と。も。頗。富。貴。の。相。あり。盗。を。ま。ま。り。の。ふ。あ。ら。は。
 且。その。母。を。お。り。と。切。り。盗。賊。の。又。仁。義。あり。首。級。續。る。
 り。あ。り。と。も。か。も。孝。子。を。連。累。せ。ば。吾。黨。の。恥。不。只。速。ふ。の。
 仕。使。を。放。し。ひ。て。法。の。如。く。某。を。罪。に。お。し。ひ。ま。り。と。憚。る。元。と。
 首。伏。し。青。紙。す。て。う。ち。笑。ひ。汝。が。い。不。胡。乱。之。た。め。利。九。郎。が。
 廊。へ。潜。び。入。り。影。の。物。を。偷。ま。り。又。金。刺。が。宅。へ。潜。び。入。り。影。の。物。を。
 盗。ま。り。た。ん。ま。り。必。賊。物。あり。と。ま。ま。り。と。ま。ま。り。又。弱。竹。の。
 追。ま。り。と。た。己。と。ぬ。る。と。を。教。し。ら。ん。ま。り。必。夕。を。用。せ。り。
 べ。と。の。夕。を。い。ふ。ま。ら。る。詳。ふ。と。ま。り。此。彼。め。り。て。胡。乱。る。
 け。と。結。ぶ。ま。り。景。空。且。く。沈。吟。し。某。の。夜。利。九。郎。が。
 廊。へ。潜。び。入。り。影。の。物。を。偷。ま。り。路。次。へ。ま。り。隠。し。お。た。と。金。刺。が。庭。門。

みて弱味とあつんと教せしむる。さうも頼小懐忙御積屋如を
 望てきるとして酒井は懐落りたる時、賊物をさき送り、刃を
 失ひて、牙あの一物ども帯ど、泥てた、め賊物を。顧みふ追
 る。幸、物とるおろのまへ。隠せし如と亡心しとら。と実るま
 やろ、おのひさうむまへ。青砥とらるへち。利九郎ホとらんえりて
 汝等この法師と生拘とれ井の中、小固様、この物のあつり
 や。と同ど。井の中、あつる賊僧が、項は掛、つる、改陀袋と
 菅蓑一領ありしうが。さきとらぶりて、さうら。この條の物、あつ
 じ。と回答ら。蓑衣と改陀袋と進、とれ、青砥とらるへち。
 陀袋の口と開、内、あつる物を、ひとら、つる、展、覽、て、うら、息、改、金、刺
 圖書と利九郎と。その夜、ひとら、物と盗、ま。又、ひとら、賊と獲、と。

ようて二賊と鞆問とれ、一個の賊、あつる、と陳、む。あつれ、れ、も
 賊物あり。一個の言下、ふ賊、あつると名、な。あつれ、れ、も、賊物、あり。
 中、あつ、縁、由、あ、らん。さき、大、う、さ、奉、の、情、を、揚、る、う。あ、つ、ま、え、る、
 盜、賊、と、今、い、ら、ま、と、も、定、む、ら、ん。且、く、こ、ま、改、獄、舎、ま、繫、人。
 利九郎、ホ、退、出、よ。と、身、の、暇、を、あ、ら、う。て、この、日、の、廳、ハ、果、あ、ら、う。

縣井の下

青砥左衛門尉藤綱、八次の日、又、文、注、所、お、出、く。司、之、郎、と、生、出、し。
 汝、さ、の、言、を、疎、く。十六、夜、と、情、由、あ、る、申、伏、し、ん、ど。景、空、既、ま、い、り、
 ぬ、須、肩、伏、せ、れ、ど、も。彼、并、と、指、環、の、物、亦、お、出、る、後、に、同、書、を、
 宅、へ、入、り、し、る、賊、を、彼、法、師、ら、う、と、も、定、め、ら、ん。い、あ、り、あ、つ、れ、と、
 ち、う、せ、差、さ、ら、う、ら、と、後、論、せ、る、司、三、郎、額、と、著、廷、尉、の、仁、慈、天

日とあひふさし。このあつらひとほろひゆひが。母の歎きその痛し
 けしき蓋やが。あえあげん。某曩ふ。旅宿の後。然るを得
 堪む。毎日小金澤。文庫の母よりふりゆれて。読書講義の声を
 聴て。柳憂苦をりて。まんとする。彼。金刺が庭のりとうと往還せり。
 まるる。一日十六夜。あび通らむ。色紙は別離の情を述。その志
 る死と死同。ふ。彼未通女が。操又図書と異あて。捨ぐら
 るひあり。よろし。某不学よその癡情。引まそ。膠漆のかけしと
 る。もと。下女弱牝と媒妁。そく。密山の夜の数累あつぬ。さす
 彼并と指環。十六夜が贈る。瓜受が。あて。旅宿あり。さす
 老母。日本の旅。疲勞あり。俄頃。病臥て。ゆへ。毎夜。まこと。看病
 薬剤の價の貴き。厭む。此。彼。物多く。費と。行。僅十日。むら

あて。盤纏。竭し。已。紙。巻。曩。十六夜。贈。玳瑁の
 并。白銀の指環。を。高麗物。商賈。に。售。て。湯茶の價。下。侍。後
 川の。り。ある。医師。拜。赴。く。お。あ。り。あ。く。擧。捕。ま。て。つ。ま
 及。び。賢。公。の。一。條。を。め。て。その。罪。は。あ。ら。ざる。や。紙。巻。の。あ。ひ。て。
 放。ら。し。め。ら。ば。母。の。條。命。を。保。ぐ。偏。は。赦。免。る。あ。と。一。五
 一。十。を。償。り。ん。青。砥。は。く。と。ま。紙。巻。て。汝。十六夜。と。密。通。せ
 り。の。い。ま。仍。り。あ。ら。ざる。紙。巻。と。同。ま。て。縣。并。改。を。擧。げ。り。仍。を
 上。げ。た。彼。女。子。紙。巻。出。さ。ま。て。面。り。ふ。同。あ。つ。る。か。あ。り。ゆ。べし
 と。懸。り。ん。青。砥。た。り。紙。巻。ん。と。り。て。彼。後。を。あ。び。い。づ。し。と。下。紙
 さん。が。難。色。ホ。う。け。り。つ。て。坪。の。あ。ら。ま。あ。び。つ。紙。巻。金。刺。圖。書
 へ。女。児。十六夜。を。伴。ひ。て。廊。より。繞。り。ま。る。行。僧。景。空。の。柳。を。り



利九郎巻二

いん三郎

らきて坪の内へぞまゐりける。痛しん我十六夜ハ、勅心不司三郎小
 贈りしうける弁と指環より疑まて情郎ハ鎌倉の獄舎よ
 りつと嘆え一日より。涙の長滴未終よ。海ともあらん抱おひ
 深死歎を紙家そるお母よまごづう由あをんば鎮よお持りごよ
 ちとてひとり便室よこりわつ。衣引被をて臥するふ猛一
 鎌倉より戻んつ。文治正なるる。新獲おふりのうら。推辞て
 己ぶ死よりあけまばおそのくも文は後ひて。養子のるとりみ
 ちあつらつ。正よと酒は悩る漁郎の柳風ふ痛る園裏の花吳宮
 小西院がゆ気患て。算ていも羨るるが如く。うん関の王牆か胡不
 りさるとは泣てまごく妍はぬく。さんま三郎三郎がいつく縛
 られて坪の内より引とえられける。痛しんもいと儚おくて愛訂とも

辨へむ背向よりりてぞ居たりける。當下青砥齋洞ハ、刺状
 子よ對ていふや。圖書が曩又新る亦弁と指環を。其の夜ハ、
 司三郎を絨ことふちうせども。市人利九郎が擲獲する。景空と不行
 信いしむ。公氣受むと弱牛を教ふる。その夜の盜賊あるより。を
 首伏せり。おれども。彼弁と指環の出知定りまらば。おのふらびて
 司三郎を鞆問する。彼日未十六夜と密通まよりて。件の両品ハ十六夜が
 贈りしを。老母の業割の價にせんとも。高麗物高賈ふ售する。いつら
 りりある。冥るるが司三郎ハその罪よあらば。こまの虚実をわん
 とそ十六夜を召する。いつらあるとありや。と問が。金刺圖書小片を
 とめ。そのへえ。跡由形もあらざる。あて全彼りのが。巧ておらる。は
 こそ。廷尉こま。おれより。いなる比。同郷の好を告ぐ。彼杜俊が房ある

主地。絶のりん。欵と。おひやま。方寸。乱。腸。断。難。ま。て。送。恨。云。茶。は
 竭。ぐ。毎。宵。の。私。云。天。神。地。祇。を。う。け。て。怒。り。の。虚。言。欵。の。書
 ぬ。可。は。怒。ど。れ。ば。十。六。夜。こ。ま。は。激。ま。り。て。や。や。小。浜。と。搦。弁。と。指。環。の
 の。め。目。け。ら。が。司。何。小。贈。り。物。を。傳。り。し。ま。る。ま。る。の。夜。の。盗。賊。と。僧
 の。り。や。俗。あり。や。定。う。小。怒。付。ま。と。と。あ。そ。ろ。く。回。音。く。金。刺。の。備
 痛。く。女。見。を。え。る。眼。と。瞪。し。ま。る。ま。る。十。六。夜。の。何。ら。の。親。乃
 意。欲。も。あ。る。彼。盗。賊。と。引。合。ま。る。欵。淫。婦。不。孝。の。天。が。下
 ある。文。注。亦。あ。て。が。ま。で。羞。を。か。ず。ま。る。大。膽。無。教。言。語。及。断。難。よ
 威。さ。り。て。お。ぬ。ぬ。と。哭。り。の。あ。や。あ。ん。紗。紙。定。め。く。彼。兩。品。を。司。三。郎。は
 贈。り。し。る。の。め。目。と。と。ま。ま。せ。ま。り。の。さ。や。と。り。の。け。け。が。孫。細。を。れ。を
 推。禁。あ。め。十。六。夜。既。は。司。三。郎。は。彼。弁。と。指。環。を。贈。り。し。と。ぞ。や。う。う。と

る。あ。る。よ。通。う。て。さ。あ。あ。と。の。い。せん。と。ま。る。の。い。つ。ふ。ぞ。や。家。小
 在。る。目。の。親。が。ひ。よ。威。を。り。て。懲。ま。り。の。あ。あ。め。孫。余。殿。の。文。注。所
 あり。孫。細。仰。を。承。り。この。二。件。の。善。悪。邪。正。を。乳。と。よ。汝。が。云。茶。を
 借。らん。や。の。と。嗚。呼。と。叱。ま。れ。ば。金。刺。圖。書。の。さ。り。當。る。現。う。は。術
 ろ。て。畏。う。て。ぞ。居。り。け。る。孫。細。う。ま。り。て。圖。書。の。い。の。や。の。十。六。夜。か
 淫。奪。の。門。戸。の。固。がる。よ。り。起。る。本。是。欵。の。由。断。る。ふ。却。と。上。の
 女。婿。を。究。め。て。も。家。風。正。し。の。り。ん。や。こ。ま。は。由。て。判。ま。れ。と。れ。の
 司。三。郎。の。盗。賊。は。あ。ら。む。と。あ。ら。の。あ。ま。で。景。空。首。伏。く。弱。件。を。教。世
 と。ま。う。は。エ。も。又。信。だ。か。り。故。り。の。あ。と。る。ま。が。彼。の。涸。井。と。墮。ると
 り。ど。も。その。あ。ら。り。ふ。刃。り。又。賊。物。を。え。む。こ。ま。は。必。縁。由。あ。り。ド
 され。ば。司。三。郎。も。る。母。疑。る。れ。と。知。る。と。金。刺。圖。書。の。女。見。と。と。り。の

鎌倉より遠くへ。亦復國とあり。と説く。この日の廳に果て
 けり。さる程は後綱の五十子七郎。浅羽十郎との雑言二人は計策
 と授て金澤へ遣ふ。五十子浅羽の姿を変て彼此を律細し。そのび
 きのびよ市中の風を吹く。とらふとも。ひまごひとも。候りて
 かくて又侍後川の石より小葎簀走めづ。して里人行客の憩所
 とて。茶を賣る。娼女あり。されが彼此人毎日小集合て。おのづか
 らぬぐる。物々をさる。程は好車。のりのその名を負へ。宇治の
 尻掛茶屋と名づけり。むう。宇治の亞相隆國卿。彼此人は今昔の
 物々をさる。とらふ。書とめ。め。紙と今昔物語とも。又
 宇治納言物語ともいへ。か。り。五十子浅羽。あ。る。の
 の里人が。毎日。は。及。ま。され。鎌倉へ。交。加。る。ま。は。打。扮。て。た。の

宇治の尻掛茶屋は憩ひつ。世間の雑言を吹く。凡十日を
 みて。下日由憩む。とらふ。け。彼。女。も。いと。親。く。こ。を。歎。つ。て。
 四表八表の物々をさる。とらふ。又鎌倉の風を吹く。とらふ。同叙は。娼女。の
 や。ひ。ぬ。る。と。ら。ふ。金澤。も。と。ら。ふ。両。個。の。盜。賊。を。捕。獲。て。鎌。倉。へ。送。り。て。
 見。ゆ。り。し。一。個。の。年。紀。三。十。を。ら。ふ。行。僧。も。一。個。の。侍。の
 と。ら。ふ。羽。と。や。ら。ん。の。旅。客。も。と。ら。ふ。年。才。ハ。十。五。三。十。五。三。を。ら。ふ。
 男子も。とらふ。とらふ。彼。亦。の。い。ふ。り。けん。和。君。達。ハ。毎。日。は。鎌。倉。へ
 赴。き。の。り。バ。そ。れ。が。の。り。けん。果。る。と。も。侍。の。い。ふ。り。と。ら。ふ。兩。個。の
 雑言の。も。と。ら。ふ。り。も。同。く。け。ら。ま。して。津。の。舟。を。獲。る。と。ら。ふ。と。ら。ふ。と。ら。ふ。
 彼。行。僧。と。仕。伎。ハ。一。個。の。質。庫。も。入。て。物。夥。愉。と。り。一。個。の。金。刺。が
 庭。門。を。下。女。弱。女。を。教。へ。り。罪。藉。既。に。定。り。て。僧。由。仕。伎。由。井

濱あて首を切らまじりて死す。其の死に死にけりて面を隠す。と
 真一あつ物なれば。婆こまを笑中あむ。ある痛すや。阿責の
 公口は堪がかりけん。罪あるぬ罪と身は負て刃の清とありけりよ。
 孫陀仏とて唱あぞ。五十子浅羽目を注し。姨にその病と宣ふぞ。
 彼ホの真の盗賊あるを犯人の別ありや。殺まじし多といふ。お中
 備ふ人あつば。婆の同止る。女を抗つ声と密め。寛
 狂に命を預き。過世の業因るべけ。と彼一件の盗賊ハ法師と
 旅客あつは。正しく別あるのを。とひつ外。面を人まじり。
 五十子浅羽の耳を側。その盗賊ハ。いりるのぞ。笑て益る。死る
 ろが。笑果さ。ん申。送懐し。といつて。婆。申。勅。心。今。こ。ま。と
 あつども。いひつ移て。床。几。身。を。侍。せ。彼。盗。賊。ハ。別。あり。とも。既。

罪人不定りて。法師と旅客と。首刻と。まじり。と。い。へ。犯人。あ。は。し。ら。
 申。あ。つ。は。多。く。も。吾。口。の。人。の。善。悪。を。い。り。ん。申。う。り。る。死。不。終。
 ろ。ま。じ。り。と。同。く。あ。然。止。が。し。必。人。も。告。め。あ。る。その。夜。さ。う。子。母。家。の。
 質。庫。あ。潜。び。入。り。て。物。を。盗。ま。す。又。金。刺。ぬ。の。第。宅。あ。入。り。て。物。を。
 盗。ま。す。刺。女。の。子。を。殺。し。る。の。の。川。下。る。殿。子。打。小。船。の。我。本。
 八。地。潜。の。よ。太。太。と。呼。ぶ。両。個。の。悪。棍。が。不。考。る。り。法。師。と。旅。客。の。
 搦。捕。ら。ま。じ。り。比。我。来。八。申。よ。太。太。申。い。つ。害。怖。て。三。浦。の。う。ま。
 逃。し。る。が。流。石。よ。宅。を。あ。り。捨。つ。て。や。ま。の。あ。り。し。と。ん。竹。り。し。
 この。さ。う。り。る。の。里。人。ハ。彼。ホ。が。人。を。ま。り。し。る。申。あ。れ。ど。寝。せ。ら。れ。ん。
 ろ。死。お。そ。れ。て。其。陰。言。り。の。の。申。あ。り。し。と。人。あ。る。ま。あ。せ。の。い。し。
 と。ひ。を。め。た。て。物。證。と。い。は。し。五十子浅羽。の。さ。う。の。中。あ。つ。教。び。る。身。

うけ多つつと。應て獄卒兩三人与来太我其八小御をうけて。其の内へ引居らる。青砥とあるべし。圖書と利九郎小御の悪棍本を指し。這奴亦ハ侍後川のりとるふ在りて。さうく操奪紙るとある。さうく我其八といひ癖者るなり。這奴亦が肩伏する。亦何様。如此とて。その詳小説亦か。是ハ利九郎が物を盗らる。この西個の戒。又弱井を殺して金刺が物を盗り去る奴。与来太あり。さうく亦何様。景空恨て。個井は墮する。亦疑。終は寛枉小御ある。さうく亦彼法師。一三日半向中隠せば。て人と殺し。物を盗る。力のつ。これなり。そのとつ。さうく。さうく。竊は元久とある。道頼法體殊務ふ。と盗とす。さうく。力のよ。其の面影。利九郎小御。さうく。疑解。彼が改陀袋と展後。乃で裏は二巻の度帳あり。伊勢國を羽の漢

縣井魚太郎が長男。乳名小太郎。某年某月某日。祖母の重病平愈の爲。父の命。あつて出家剃度せしめ。法名景空と賜ふ者あり。と寫して同御輪濟寺の印文あり。さればこそ。この法師。幼稚と云ふ。出家。あつれば。送は面と入。怒ら。林と。か。と。罪を犯する。仕伎の。さうく。度て。司三郎を。牙と。ある。な。さうく。罪を。牙。負。て。牙。を。救。り。ん。と。さうく。と。憐。む。さ。の。の。ど。も。う。ね。と。さ。う。く。嘆。賞。一。假。獄。會。ふ。餐。ぐ。と。り。と。も。下。さ。び。の。阿。責。を。加。む。町。嚙。は。勲。り。せ。次。の。日。備。の。人。と。遠。離。漸。は。彼。が。公。操。を。稱。賛。し。の。地。へ。來。り。る。亦。歴。を。た。げ。ぬ。れ。バ。景。空。鎮。ま。う。ち。後。て。今。ハ。何。と。る。匿。ゆ。べ。き。會。道。幻。雅。と。云。ふ。出。來。り。て。い。の。程。の。り。く。所。父。又。携。り。ま。し。筑。前。國。天。童。寺。の。莊。園。淨。院。へ。赴。き。て。ゆ。ひ。に。さ。う。く。小。父。の。教。訓。嚴。重。は。て。終。て。下。さ。び。の。信。と。る。こと。は。

七二

許さんばどゆべいとありしに、いひあかす。二十年來遠難只管内典
 ふを委祿正念正覚の終行する外化するのりしに、近属毎夜よ
 りつる夢の鏡、ふらうまかりゆべ。猛は呼足又暇を乞後て久しき
 友御へ立ちつて、笑けが哀たうな父の身なりして、中野縣の年と殺ら
 たる小遙後よ出生して、その名よまゆも志ぶる。才三郎といふ力の
 ひんく、逼まど母も事ていと考ひるもの多き母親のいひまはて
 又魚太郎が叶するの友なる。金刺某甲小舟を寄んとて、いぬる月親子
 の海とも小孫余へ赴くと、里人小が寄らう。彼水江の浦、面が二百四十
 餘年経て、ななへありしものや有けん。誘さるる追鬼て、孫余へゆん
 とて夜を日小縫て、の地は到る。彼金刺が宿所を問、金澤文庫のちと
 ろるよ。あ人のいふよりて、彼れへ赴んとする。日ハ暮しり。不念業肉の

途に迷ひて、ゆらうあり、夜の深とんば、商賈の門を敲き、宿を
 投ふ許され、袖は已とをたぐて、差下る。車の下は、運入て、天の雨を
 待たふ。兩個の癖者、あびよりて、彼廊の屋根に登り、石を穿て
 裏面よ入り。物夥盗去る。紙面りて、ゆいし、一個の外面は、在る。家
 内のりの、呼吸学ん、こぶ五指、忽地よ教る。とみやと防て、阿容とと
 うらものりて、盗賊を中よ出去する。小、虚ととて、あてぬま、吾侪
 必疑まん。餘外へ、藤坐を代る。ふまじと、漫は彼れを、まきると、死忽地
 洞井よ、落る。本よ、在る。と三日よ、捕まて、ゆひを、まうれども、犯せり。罪
 る死のいひ、釋さんや。と、あひら。文、便更、引き、まて、ある。ふ、それ、筆、死
 罪人の、その、名を、録井、司三郎。と、名、告る。を、使、し、り。送、よ、面、へ、怒、と、ね、と
 給、ふ、づ、も、あ、ぬ、身、あ、て、あ、り、け、り。と、を、中、あ、り、ぬ。と、ふ、ほ、ら、う、く

長き...

胞兄が。為令を親づれば。過世の悪業はひりれてや。さうさ。屠殺の
 羊とありぬ。母の為。あはれ。子なるまで。口は幼稚。入る。遂に。干
 年の。子と。さう。これ。が。ひ。き。ま。て。や。居。る。らん。今。の。才。が。令。を。限
 さ。ん。母。の。後。傷。は。さ。小。物。も。さ。じ。こ。ま。う。の。う。ち。ひ。あ。そ。り。て
 母。さ。む。び。て。あり。の。つ。う。や。ま。れ。罪。を。死。す。と。い。ひ。釋。て。放。さ。る
 と。も。何。ら。せん。犯。さ。ぬ。替。紙。牙。は。負。て。才。を。放。つ。母。由。飲。び。餘。命。を
 保。つ。る。の。は。さ。う。さ。う。の。り。と。一。と。さ。ら。ふ。ひ。定。め。て。盜。賊。の。り。と。名。を。不
 了。さ。う。れ。が。あ。廷。尉。へ。人。の。こ。ろ。を。思。は。し。置。實。を。察。し。ゆ。い。と。是。う。ら。ぬ
 獲。る。異。る。後。か。つ。の。さ。れ。ゆ。ひ。ぬ。あ。の。三。郎。と。免。し。あ。ひ。て。宗。空
 と。代。ら。し。め。と。紅。涙。と。袖。を。拭。ひ。て。お。ら。も。る。く。演。う。ら。ば。れ。ゆ。坐。ま。感。涙。を
 拭。ひ。ぬ。と。才。が。三。郎。と。言。は。よ。て。事。の。越。と。復。さ。し。宗。空。と。兄。弟。の

名。宗。空。と。三。郎。も。又。い。う。う。ち。は。は。て。才。く。の。兄。宗。空。を。あ。そ
 め。ひ。て。其。罪。を。ひ。と。と。胞。兄。才。送。本。命。を。惜。ぶ。兄。の。才。代。ら。んと
 い。ひ。弟。兄。を。助。ん。と。才。の。争。ひ。の。滅。し。り。出。て。い。と。も。愛。し。た。孝。悌。忠
 信。當。今。多。く。得。が。た。仕。役。宜。り。の。る。公。操。り。て。獲。負。苦。不。迫。と。も
 り。て。不。善。の。初。ひ。を。さ。る。と。盗。賊。へ。決。て。別。よ。あ。は。と。さ。ひ。う。ら。ば
 五。子。七。郎。浪。羽。十。郎。不。計。策。を。授。て。潜。り。賊。を。空。に。撃。た。さ。る。不。果。て。潜
 小。袖。を。擲。獲。し。り。且。彼。兄。才。が。素。姓。を。問。ふ。も。羽。備。杖。武。盛。か。末。茶。子。て
 平。宗。世。さ。り。あり。比。は。も。羽。一。才。不。領。と。い。ふ。も。子。孫。零。落。し。て。高。山。野。火
 の。ま。る。は。家。禰。連。綿。と。して。疑。ふ。べ。き。あ。り。且。三。郎。の。幼。稚。の。時。書。を。回
 せ。し。の。み。これ。を。弑。る。不。宏。才。廣。博。書。と。し。て。見。る。あ。り。の。り。金。刺。る。ん。と。さ
 ら。の。あ。ら。ん。や。藤。綱。彼。木。が。孝。悌。を。感。ず。る。の。あ。り。北。條。殿。へ。は。え。の。け

ちのりく。執権持不勸賞を加えらる。僧景空の鎌倉極楽寺法華堂
 の別當不補せられ。才司三郎ハ金刺圖書代らして六浦莊司に任ぜられ
 兼て金澤文庫の学次補し。五百貫の莊園と宛らる。就中金刺
 圖書の約は背子女婿と宛て。母とく鹿忽の所をせり。且圍門圓
 かして家事治る。びつる大莊と管領し。書生教育の任は塔倉
 信と折鑑を加えらる。けきと格別恩免の沙汰とめて主人顯時イ
 領下し。あめめし。速し女兒十六夜とめて。司三郎不妻し。その身ハ隱
 居して信と亡ふ。全まじ。又子母家利九郎ハ僅し一蓋の釜を獲しと
 まて清僧景空と搦捕。卒介の所をせり。とも犯人既し。殊伏
 する。及びて是非の沙汰。及び。又高柄物と時四郎ハ旅客乃物を
 買ふ。券書と取。と賣買の方等困る。れども出知正。了れ物をる。と

りて此度の恩免せらる。向後を信と慎む。又司三郎ハ老母大稻ハ
 旅客不病臥する。お。その子の搦捕られ。はを。駭歎する。
 殆死んとせり。あ。そのお。司三郎ハ孝子ある。はを精。
 且その夜の賊の。と。監。ハ彼大稻が。令を。預。らん
 とい。憐。と。竊。不。旅客の亭主。分付。町。不。着。病。は。更。ふ。一個の
 醫師。不。命。と。療。治。と。加。る。と。せ。し。性。命。と。全。する。の。を。二。個の
 子。と。も。が。も。ら。る。福。と。獲。て。お。の。く。名。と。顯。家。と。與。と。り。を。せ。し。
 病。痾。頓。不。差。と。れ。今日。この。処。へ。は。し。り。食。の。有。と。ら。る。と。言。は。れ。し。
 物。と。して。親。知。と。れ。バ。備。の。障。子。を。推。開。て。極。楽。寺。の。権。上。人。に。言。は。れ。し。
 その。身。六。浦。莊。司。兼。金。澤。文。庫。の。学。次。孫。井。司。三。郎。ハ。法。衣。禮。服。暗。に。
 不。取。て。老。母。大。稻。り。共。し。青。紙。を。對。ひ。て。再。拜。し。執。権。北。條。殿。の。仁。政。

延尉藤綱の明断と感佩し。且再生の鴻恩と謝し。至るに金屏に
 の慚愧後悔して背ふ冷やるる汗を流し。席もゆるほぬ可るのふ
 十六夜の父の為ふこまに涙を流し。良人の為ふこまを飲び。お
 受とるあど。与世四郎。利九郎亦ハ駿我どしをそれ情を只管延尉
 綱の聰察と感謝せり。當下延尉の司と郎不對に金刺が状。浮き
 きて伝る。辨毎して利と送ふこと。由汝が為ふ一字の屏と泰ふ。且
 圖書を妻鞞へその性伶俐し。孝も良人を練ふるは。唆傳ふ。あつた長老
 の礼をのて宜く舅姑を扶助せし。又金刺が老僕繁市が女見弱牛が狂
 死せも原是汝と十六夜が情より起まる。あつた彼繁市の老と
 後女見を喪ひ。その主と小隠居せ。迷惑至極と。その司三郎ハ
 圖書を乞て繁市を家僕として懇切に召使せし。と残る。まゝに説諭し

又幸子七郎。浅羽十郎と。地階と末太小軸我末ハ。由井濱ふり出して
 速く首を刎へ。首と下知る。既小團圓と。耐ふ。後徳孝と。採て判く道。
 白衣の市人青侍と。あるも。原是各学小あり。一個ハ少。一個ハ老。彼ハ
 侵。此ハ賢。一栄一枯。命と奈何。魚木ハ母の為小。初て一子を降
 と。屠家に進。一人出家の功德を。りて九族脩く。学を受。如此孝
 門亦復孝子。紙出と。一個ハ僧。一個ハ儒。言約。美ぞ先達。よ。羞ん。
 閨女情と。惹て。坐小。禍胎と。釀し。奸賊首と。献ア。を。晴。小。冤枉と。解
 王事監り。皇天。滅と。罪と。善と。勧め。惡と。懲。く。の。後。世。の。教。よ。
 判。り。て。筆。を。閣。衆。皆。暇。を。の。の。ま。の。く。再。拜。稽。首。と。
 文注所と。ぞ。退出。り。る。

